



**saveMLAK**

# 東北各地の「いま」 —図書館復興を中心に

saveMLAK報告会2018～社会教育・文化施設の救援・復興支援～

2018年6月24日(日)、於・筑波大学東京サテライト

岡本真(saveMLAKプロジェクトリーダー)

# 東北各地の「いま」概説

---

- 震災から7年目の夏
  - もう7年、まだ7年
- 迫る復興交付金の年限(2020年度)
  - 現在は原則的に継続事業のみに交付
- 変わりゆく人の居場所
  - 人事問題の永続的な課題
- 活かされる／活かされない東北の経験
  - ありえない大阪地震の被害



# 図書館の復興—気仙沼市

- 揺れ被害による大規模被災
- 2018年3月31日オープン



# 図書館の復興一名取市

- 揺れ被害による被災
- 2018年12月オープン予定
- 名取市図書館友の会なとと、発足





# 図書館の復興一大槌町

- 津波被害による被災
- 2018年6月10日オープン



# 図書館の復興－南三陸町

- 津波被害による被災
- 南三陸町生涯学習センターとして2019年4月オープン予定



<http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/9,10596,c,html/10596/20160408-172819.pdf>



# 図書館の復興―須賀川市

- 揺れ被害による被災
- 2019年1月11日オープン予定



# 総論：一定の復興の帰着

- 被災施設の復旧はおおむね終了
- プラス効果としての近隣自治体への好影響
- 帰着と言えるのかという問題
- 繰り返される被災と人災
- 平時への復帰という問い
- 平時の備えの重要性





# 補論：地震時の図書館とその対応

## －saveMLAKの活動からの教訓

---

1. 市民に死者を出した基礎自治体は、大幅に機能低下する
2. 公務員に死者を出した基礎自治体は、大幅に機能低下、もしくは停止する
3. 事後の対応では成果は乏しく、事前の準備がものをいう
4. 自治体と図書館、そして職員の受援力がその後の展開を大きくわせる
5. 基礎自治体の図書館復旧は、都道府県立図書館の力量に左右される
6. 図書館に対する応急危険度判定は、安易には信用できない
7. 図書館の本質は「機能」であるが、「施設」も欠かせない
8. 非常時において「図書館間協力」の現実的な程度が明らかになる
9. 情報弱者に甘んじる図書館職員・関係者は「支援」側では足手まといである
10. 情報を集約・共有することができるか、図書館の意義が大いに問われる
11. 非被災図書館は災害発生時に自己点検せよ
12. 非被災図書館を中心に図書館は情報支援せよ

岡本真「地震時の図書館とその対応」図書館問題研究会千葉支部  
「もし明日、地震が来たら：危機管理ワークショップin図書館」2016年6月12日（日）に追加



**saveMLAK**

# 東北各地の「いま」 —図書館復興を中心に

saveMLAK報告会2018～社会教育・文化施設の救援・復興支援～

2018年6月24日(日)、於・筑波大学東京サテライト

岡本真(saveMLAKプロジェクトリーダー)